



(19)

(11) Publication number:

11095729 A

Generated Document.

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(21) Application number: 09276526

(51) Intl. Cl.: G09G 3/36 G02F 1/133

(22) Application date: 24.09.97

(30) Priority:

(43) Date of application  
publication: 09.04.99(84) Designated  
contracting states:

(71) Applicant: TEXAS INSTR JAPAN LTD

(72) Inventor: TAGUMA MICHIO  
KANO SUSUMU

(74) Representative:

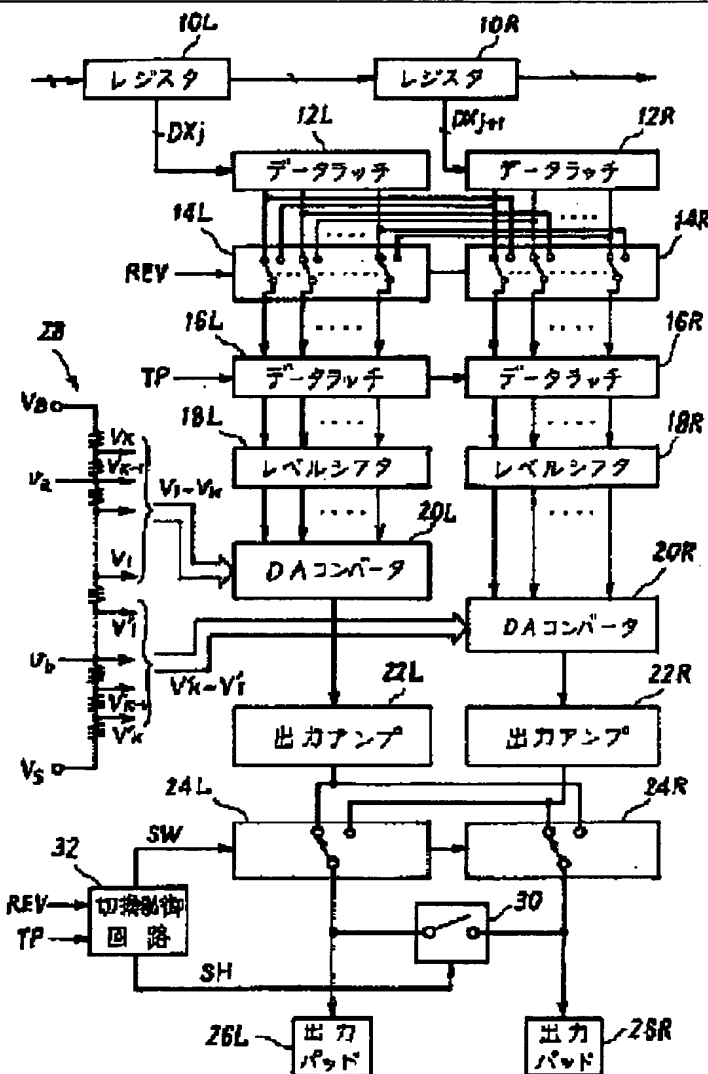
(54) SIGNAL LINE DRIVING  
CIRCUIT FOR LIQUID  
CRYSTAL DISPLAY

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To make a signal line driving circuit possible to perform dot inversion drive of a common constant drive method by a low power consumption system, in a TFT liquid crystal display.

SOLUTION: A drive part equivalent to adjacent two channels (columns) is constituted of a pair of registers 10L, 10R, a pair of first data latch circuits 12L, 12R, a pair of first switch circuits 14L, 14R, a pair of second data latch circuits 16L, 16R, a pair of level shifters 18L, 18R, a pair of DA converters 20L, 20R, a pair of output amplifiers 22L, 22R, a pair of second switch circuits 24L, 24R and a pair of output pads 26L, 26R. Respectively corresponding signal lines (not shown in figure) in a liquid crystal panel are connected to the output pads 26L, 26R. An opening/closing switch 30 is connected between the output pads 26L, 26R. The opening/closing switch 30 is closed temporarily when a polarity of alternation is inverted to short-circuit adjacent signal lines each other.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-95729

(43) 公開日 平成11年(1999) 4月9日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

G 0 9 G 3/36

G 0 2 F 1/133

識別記号

5 5 0

F I

G 0 9 G 3/36

G 0 2 F 1/133

5 5 0

審査請求 未請求 請求項の数 6 F D (全 14 頁)

(21) 出願番号

特願平9-276526

(22) 出願日

平成9年(1997) 9月24日

(71) 出願人 390020248

日本テキサス・インスツルメンツ株式会社  
東京都港区北青山3丁目6番12号 青山富士ビル

(72) 発明者 田熊 道雄

埼玉県鳩ヶ谷市南3丁目18番36号 日本テキサス・インスツルメンツ株式会社内

(72) 発明者 加納 行

埼玉県鳩ヶ谷市南3丁目18番36号 日本テキサス・インスツルメンツ株式会社内

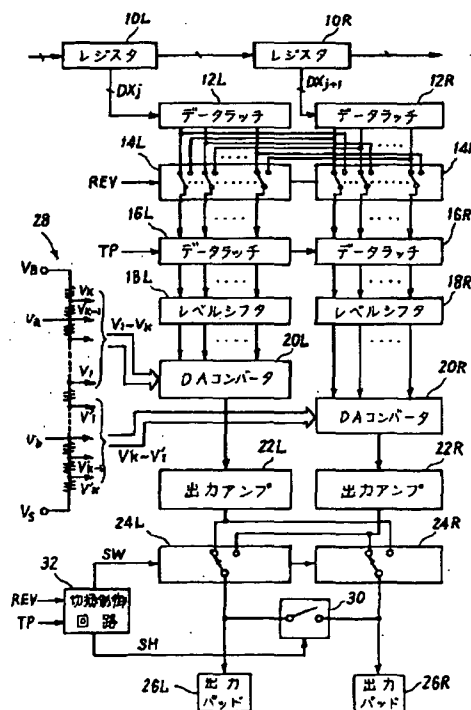
(74) 代理人 弁理士 佐々木 聖孝

(54) 【発明の名称】 液晶ディスプレイ用信号線駆動回路

(57) 【要約】

【課題】 T F T型の液晶ディスプレイにおいて低消費電力方式でコモン一定駆動法のドット反転駆動を行えるようにする。

【解決手段】 隣合う2つのチャンネル(列)分の駆動部は、一対のレジスタ10L、10R、一対の第1データラッチ回路12L、12R、一対の第1切換回路14L、14R、一対の第2データラッチ回路16L、16R、一対のレベルシフタ18L、18R、一対のDAコンバータ20L、20R、一対の出力アンプ22L、22R、一対の第2切換回路24L、24Rおよび一対の出力パッド26L、26Rから構成される。出力パッド26L、26Rには液晶パネル内の各対応する信号線(図示せず)が接続される。出力パッド26L、26R間には開閉スイッチ30が接続される。この開閉スイッチ30は、交流化の極性反転時に一時的に閉じて、隣合う信号線同士を短絡させる。



## 1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 マトリクス状に配置された複数の画素電極と1つの対向電極との間に液晶が充填され、各々の前記画素電極は各対応する薄膜トランジスタを介して各対応する信号線に電氣的に接続されるとともに、前記薄膜トランジスタの制御端子が各対応するゲート線に電氣的に接続され、前記対向電極には所定の対向電極電圧が印加され、各々の前記画素電極には各対応する前記ゲート線が活性化される度毎に所望の表示階調に対応した電圧レベルを有し、かつ前記対向電極電圧に対して相対的に正の極性または負の極性を有する階調電圧が前記信号線および前記薄膜トランジスタを介して印加されるように構成された液晶ディスプレイ用の信号線駆動回路において、奇数列の各信号線には正極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給する第1の動作と、奇数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には正極性の階調電圧を供給する第2の動作とを所定の周期で交互に繰り返させる切換手段と、前記第1の動作と前記第2の動作との間の切換時に所定のタイミングで任意の奇数列および偶数列の信号線同士を一時的に短絡させる短絡手段とを有する液晶ディスプレイ用信号線駆動回路。

【請求項2】 前記短絡手段は、各隣合う一対の信号線の間に接続されたスイッチ手段と、定常時は前記スイッチ手段を開状態とし、前記切換時に各信号線に対する階調電圧の供給が中断する期間だけ前記スイッチ手段を閉状態とするスイッチ制御手段とを有することを特徴とする請求項1に記載の信号線駆動回路。

【請求項3】 前記短絡手段は、全ての隣合う信号線の間に接続されたスイッチ手段と、定常時は前記スイッチ手段を開状態とし、前記切換時に各信号線に対する階調電圧の供給が中断する期間だけ前記スイッチ手段を閉状態とするスイッチ制御手段とを有することを特徴とする請求項1に記載の信号線駆動回路。

【請求項4】 前記短絡手段は、前記スイッチ手段が閉状態になっている期間中に、前記対向電極電圧にほぼ等しい電圧を与える電圧源に各々の信号線を電氣的に接続させる接続手段を有することを特徴とする請求項1ないし3のいずれかに記載の信号線駆動回路。

【請求項5】 前記切換手段は、前記ゲート線が線順次走査で駆動されるライン周期またはその整数倍の周期で前記第1の動作と前記第2の動作とを交互に繰り返させるとともに、各々の前記画素電極に前記階調電圧が印加されるフレーム周期で前記第1の動作と前記第2の動作とを交互に繰り返させる請求項1ないし4のいずれかに記載の信号線駆動回路。

【請求項6】 マトリクス状に配置された複数の画素電極と1つの対向電極との間に液晶が充填され、各々の前

## 2

記画素電極は各対応する薄膜トランジスタを介して各対応する信号線に電氣的に接続されるとともに、前記薄膜トランジスタの制御端子が各対応するゲート線に電氣的に接続された液晶パネルと、

前記対向電極に一定の対向電極電圧を印加する手段と、前記ゲート線を線順次走査で順番に活性化するゲート線駆動手段と、

各々の前記ゲート線が活性化される度毎に該当する前記画素電極に対して所望の表示階調に対応した電圧レベルを有し、かつ前記対向電極電圧に対して相対的に正の極性または負の極性を有する階調電圧を前記信号線を介して印加する信号線駆動手段と、

前記信号線駆動手段が奇数列の各信号線には正極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給する第1の動作と、前記信号線駆動手段が奇数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には正極性の階調電圧を供給する第2の動作とを所定の周期で交互に繰り返させる切換手段と、

前記第1の動作と前記第2の動作との間の切換時に所定のタイミングで任意の奇数列および偶数列の信号線同士を一時的に短絡させる短絡手段とを有する液晶表示装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0010】

【発明の属する技術分野】本発明は、多階調表示を行う液晶ディスプレイの信号線を駆動する駆動回路に関する。

## 【0020】

【従来の技術】液晶ディスプレイ（Liquid Crystal Display）の代表的なものとして、薄膜トランジスタ（TFT）型の液晶ディスプレイ（TFT-LCD）がある。

【0030】図8に、アクティブマトリクス方式のフルカラーTFT-LCDの構成を模式的に示す。この種のTFT-LCDは、複数本のゲート線Y1, Y2, …と複数本の信号線X1, X2, …とをマトリクス状に交差配置し、各交差点の画素に薄膜トランジスタTFTを配置したTFT液晶パネル100と、この液晶パネル100のゲート線Y1, Y2, …を駆動するための並列接続されたゲート線ドライバG1, G2, …と、液晶パネル100の信号線X1, X2, …を駆動するための並列接続された信号線（ソース）ドライバS1, S2, …と、各部の動作を制御するコントローラ102と、表示すべき画像信号に対して所要の信号処理を行う画像信号処理回路104と、フルカラー（多階調表示）を実現するための多階調の電圧を発生する階調電圧発生回路106とから構成されている。

【0040】画像信号処理回路104は、各画素の表示の階調を表すデジタルの画像データDXを各信号線ドライバS1, S2, …に供給する。たとえば64階調の場合には、R, G, Bの各画素につき6ビットの画像データD

## 3

Xが画像信号処理回路104より各信号線ドライバS1, S2, …に与えられる。コントローラ102は、水平同期信号HS および垂直同期信号VS に同期した種々の制御信号またはタイミング信号を各ゲート線ドライバG1, G2, …および各信号線ドライバS1, S2, …に供給する。階調電圧発生回路106は、液晶パネル100のV（電圧）-T（透過率）特性に基づいて表示の多階調に対応した電圧レベルをそれぞれ有する多段階の階調電圧を各信号線ドライバS1, S2, …に供給する。

【0050】図9に、液晶パネル100の典型的な構成を示す。2枚のガラス基板110, 112の間に液晶114が封入または充填されている。一方のガラス基板110の内側面において、各ゲート線Yi（図示せず）と各信号線Xj（図示せず）との交差点位置付近に透明導電膜からなる1個の画素電極Pi,jと1個の薄膜トランジスタTFTi,jが形成されており、画素電極Pi,jはTFTi,jを介して信号線Xjに接続され、TFTi,jのゲート電極Tgはゲート線Yiに接続されている。他方のガラス基板112の内側面にはR（赤）、G（緑）、B（青）のカラーフィルタ115を介して透明導電膜からなる対向（共通）電極116が一面に形成されている。両ガラス基板110, 112の外側面にはそれぞれの偏向軸を互いに平行または直交させるようにして偏向板118, 120が設けられている。

【0060】なお、図9において、Tsはソース電極、Tdはドレイン電極、124は半導体層、126は保護膜、128はゲート絶縁膜、130はブラックマトリクスである。

【0070】図10に、液晶パネル100内の回路構成を示す。各画素電極Pi,jと対向電極116と両者の間に挟まれた液晶114によって1画素分の信号蓄積容量Csが構成される。ゲート線Y1, Y2, …は、ゲート線ドライバG1, G2, …により1フレーム期間内に通常は線順次走査で1行ずつ選択されてアクティブ状態に駆動される。

【0080】いま、i行のゲート線Yiが駆動されると、このゲート線Yiに接続されているi行の全ての薄膜トランジスタTFTi,1, TFTi,2, …がオンする。これと同期して、信号線ドライバS1, S2, …よりi行上の全ての画素に対するアナログの階調電圧がそれぞれ出力され、これらの階調電圧は信号線X1, X2, …およびオン状態の薄膜トランジスタTFTi,1, TFTi,2, …を介してそれぞれ対応する画素電極Pi,1, Pi,2, …に印加される。この後、次の(i+1)行において、ゲート線Yi+1が選択され、上記と同様の動作が行われる。i行においては、薄膜トランジスタTFTi,1, TFTi,2, …がオフ状態になることで、各画素に書き込まれた電荷は逃げ道を失い、各電極Pi,1, Pi,2, …の階調電圧は次の選択時間まで保持される。

【0090】このようにして、各画素電極には1フレ

## 4

ム周期で階調電圧が印加されるのであるが、液晶ディスプレイでは液晶分子の劣化防止のため、液晶に電圧が交流の形態で印加されなくてはならない。TFT-LCDにおいて、液晶に交流電圧を印加する方法には、いわゆるコモン一定駆動法とコモン反転駆動法がある。

【0100】コモン一定駆動法は、図11に示すように、対向電極の電圧を一定レベルに固定したまま画素電極に対向電極電圧（一定値）に対して正の極性を有する電圧と負の極性を有する電圧を交互に印加する。

【0110】コモン反転駆動法は、図12に示すように、対向電極の電圧を高レベルと低レベルとの間で反転させながら画素電極に対向電極電圧に対して正の極性を有する電圧と負の極性を有する電圧を交互に印加する。この場合、対向電極の電圧が高レベルの時に画素電極にはこの高レベルを基準として負の極性を有する電圧が印加され、対向電極の電圧が低レベルの時に画素電極にはこの低レベルを基準として正の極性を有する電圧が印加されることになる。

【0120】コモン反転駆動法は、画素電極の電圧振幅がコモン一定駆動法の場合と比べて1/2で済むので低電圧ドライバが使えるという利点はあるが、大容量の対向電極を交流駆動するために消費電力が多いうえ、X方向でのドット反転が行えず、表示品質の点でも劣る欠点がある。反対に、コモン一定駆動法は、低電圧ドライバを使えない反面、コモン反転駆動法よりも消費電力が少なく、またY方向だけでなくX方向でのドット反転も可能であり、表示品質に優れている。このようなことから、特に大画面のTFT-LCDではコモン一定駆動法が適していると云われている。

【0130】図13に、完全ドット反転のパターンを示す。図示のように、フレームFが切り替わる度毎に(Fn, Fn+1)、液晶パネル100内の各画素に書き込まれる階調電圧の極性が交互に反転する。そして、Y方向で1ライン毎に各画素の極性が反転するとともに、X方向でも1画素毎に極性が反転する。

【0140】コモン反転駆動法では、対向電極電圧のレベルをフレーム周期およびライン周期に反転させることで、フレーム周期およびライン周期（Y方向）で各画素における階調電圧の極性を反転させることができる。しかし、一時点においては、対向電極電圧に対して正極性もしくは負極性いずれか一方の極性でしか信号線を駆動することができない。このため、同時にオン状態となる1行分の画素に正極性もしくは負極性いずれか一方の極性でしか階調電圧を印加できず、X方向で1画素毎に階調電圧の極性を反転させることはできない。

【0150】これに対して、コモン一定駆動法では、任意の時点において対向電極電圧からみて正極性および負極性の階調電圧を同時に選択することができるため、図13に示すように、液晶パネル100内の全画素についてフレーム周期およびY方向だけでなく、X方向でも1

## 5

画素毎に極性を交互に反転させることが可能である。このように、隣合う信号線ないし画素電極で階調電圧の極性が反転することで、書込み時に対向電極等で流れる電流が隣同士で打ち消し合い、これによって表示品質の低下が抑えられる。

## 【0160】

【発明が解決しようとする課題】上記のようなコモン一定駆動法において完全ドット反転を行う場合、各信号線 Xj 上の駆動（階調）電圧は、1 水平走査期間毎に図 1 1 と同様の波形で極性が交互に反転する。この場合、信号線ドライバ S は、水平走査期間の切り替わり時に各信号線 Xj を対向電極電圧を基準（中心）として一方の極性の階調電圧から他方の極性の階調電圧へ振るようにして駆動する。

【0170】このような信号線 Xj 上の電圧スイング幅はこの信号線 Xj 上（Y 方向）で相前後する（隣合う）画素の表示階調の和に比例する。したがって、たとえば、相前後する画素のいずれも最大表示階調を有する場合には、正極性（または負極性）の最大階調電圧から負極性（または正極性）の最大階調電圧へ信号線 Xj 上の電圧をフルスイングさせなければならない。このため、信号線ドライバ S は大きな駆動能力を持たなくてはならないうえ、電力を多量に消費することになる。

【0180】今後、液晶表示装置はますます低消費電力化を求められる。その中でも、信号線ドライバに対する低消費電力化の要求はますます強くなっている。

【0190】本発明は、かかる従来技術の問題点を鑑みてなされたもので、低消費電力方式でコモン一定駆動法のドット反転駆動を行えるようにした液晶ディスプレイ用の信号線駆動回路を提供することを目的とする。

【0200】さらに、本発明は、コモン一定駆動法のドット反転駆動における低消費電力化を簡易な仕掛けで実現する液晶ディスプレイ用の信号線駆動回路を提供することを目的とする。

## 【0210】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため、本発明は、マトリクス状に配置された複数の画素電極と 1 つの対向電極との間に液晶が充填され、各々の前記画素電極は各対応する薄膜トランジスタを介して各対応する信号線に電気的に接続されるとともに、前記薄膜トランジスタの制御端子が各対応するゲート線に電気的に接続され、前記対向電極には所定の対向電極電圧が印加され、各々の前記画素電極には各対応する前記ゲート線が駆動される度毎に所望の表示階調に対応した電圧レベルを有し、かつ前記対向電極電圧に対して相対的に正の極性または負の極性を有する階調電圧が前記信号線および前記薄膜トランジスタを介して印加されるように構成された液晶ディスプレイ用の信号線駆動回路において、奇数列の各信号線には正極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給

## 6

する第 1 の動作と、奇数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には正極性の階調電圧を供給する第 2 の動作とを所定の周期で交互に繰り返させる切換手段と、前記第 1 の動作と前記第 2 の動作との間の切換時に所定のタイミングで任意の奇数列および偶数列の信号線同士を一時的に短絡させる短絡手段とを有する。

【0220】本発明の好ましい一実施態様として、前記短絡手段は、各隣合う一対の信号線の間に接続されたスイッチ手段と、定常時は前記スイッチ手段を開状態とし、前記切換時に各信号線に対する階調電圧の供給が中断する期間だけ前記スイッチ手段を閉状態とするスイッチ制御手段とを有する。

【0230】あるいは、別の実施態様として、前記短絡手段は、全ての隣合う信号線の間に接続されたスイッチ手段と、定常時は前記スイッチ手段を開状態とし、前記切換時に各信号線に対する階調電圧の供給が中断する期間だけ前記スイッチ手段を閉状態とするスイッチ制御手段とを有する。

【0240】他の実施態様として、前記短絡手段は、前記スイッチ手段が閉状態になっている期間中に、前記対向電極電圧にほぼ等しい電圧を与える電圧源に各々の信号線を電気的に接続させる接続手段を有する。

【0250】また、本発明の好ましい一実施態様として、前記切換手段は、前記ゲート線が線順次走査で駆動されるライン周期またはその整数倍の周期で前記第 1 の動作と前記第 2 の動作とを交互に繰り返させるとともに、各々の前記画素電極に前記階調電圧が印加されるフレーム周期で前記第 1 の動作と前記第 2 の動作とを交互に繰り返させる。

【0260】また、本発明の液晶表示装置は、マトリクス状に配置された複数の画素電極と 1 つの対向電極との間に液晶が充填され、各々の前記画素電極は各対応する薄膜トランジスタを介して各対応する信号線に電気的に接続されるとともに、前記薄膜トランジスタの制御端子が各対応するゲート線に電気的に接続された液晶パネルと、前記対向電極に一定の対向電極電圧を印加する手段と、前記ゲート線を線順次走査で順番に活性化させるゲート線駆動手段と、各々の前記ゲート線が活性化される度毎に該当する前記画素電極に対して所望の表示階調に対応した電圧レベルを有し、かつ前記対向電極電圧に対して相対的に正の極性または負の極性を有する階調電圧を前記信号線を介して印加する信号線駆動手段と、前記信号線駆動手段が奇数列の各信号線には正極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給する第 1 の動作と、前記信号線駆動手段が奇数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には正極性の階調電圧を供給する第 2 の動作とを所定の周期で交互に繰り返させる切換手段と、前記第 1 の動作と前記第 2 の動作との間の切換時に

## 7

所定のタイミングで任意の奇数列および偶数列の信号線同士を一時的に短絡させる短絡手段とを有する。

## 【0270】

【発明の実施の態様】以下、図1～図7を参照して本発明の実施例を説明する。

【0280】図1は、本発明の一実施例による信号線ドライバの要部の回路構成を示し、より詳細には各隣合う2つのチャンネル分の駆動部の構成を示す。この信号線ドライバは、たとえば図8に示したアクティブマトリクス方式のフルカラーTFT-LCDに用いられてよい。なお、図示の隣合う2つのチャンネル分の駆動部は、図8に示す液晶パネル100の隣合う第j列および第(j+1)列の信号線Xj、Xj+1を駆動するものとする。

【0290】図1において、各隣合う2つのチャンネル分の駆動部は、一対のレジスタ10L、10R、一対の第1データラッチ回路12L、12R、一対の第1切換回路14L、14R、一対の第2データラッチ回路16L、16R、一対のレベルシフト18L、18R、一対のDAコンバータ20L、20R、一対の出力アンプ22L、22R、一対の第2切換回路24L、24Rおよび一対の出力パッド26L、26Rから構成されている。

【0300】左側および右側のレジスタ10L、10Rは、所定の周期たとえば1ライン（水平走査期間）の周期で、画像信号処理回路104（図8）からの各対応するチャンネルに割り当てられた1画素分の画像データDXj、DXj+1をそれぞれ取り込む。そして、所定のタイミングで両レジスタ10L、10Rよりそれら1画素分の画像データDXj、DXj+1がそれぞれ左側および右側の第1データラッチ回路12L、12Rにラッチされるようになっている。

【0310】左側の第1データラッチ回路12Lの出力端子は、各ビット毎に、左側の第1切換回路14Lの一方（左側）の入力端子に接続されるとともに、右側の第1切換回路14Rの他方（右側）の入力端子に接続されている。右側の第1データラッチ回路12Rの出力端子は、各ビット毎に、右側の第1切換回路14Rの一方

（左側）の入力端子に接続されるとともに左側の第1切換回路14Lの他方（右側）の入力端子に接続されている。

【0320】左側および右側の第1切換回路14L、14Rは、コントローラ102（図8）からの交流化信号または極性切換信号REVにより、たとえば1ライン周期で（1水平走査期間毎に）、一方（左側）の入力端子と他方（右側）の入力端子とに交互に切り換えられる。左側および右側の第1切換回路14L、14Rの出力端子は、それぞれ左側および右側の第2データラッチ回路16L、16Rの入力端子に接続されている。

【0330】左側および右側の第2データラッチ回路16L、16Rは、交流化信号REVに同期したコントロ

## 8

ーラ102からのデータ・ラッチ制御信号TPにより1水平走査期間置きタイミングで左側および右側の第1切換回路14L、14Rを介して左側の第1データラッチ回路12Lもしくは右側の第1データラッチ回路12Rのいずれかより1画素分の画像データを取り込むようになっている。左側および右側の第2データラッチ回路16L、16Rの出力端子は、それぞれ左側および右側のレベルシフト18L、18Rを介して左側および右側のDAコンバータ20L、20Rの入力端子に接続されている。

【0340】レベルシフト18L、18Rは、DAコンバータ20L、20R内の回路素子がコモン一定駆動法による正極性と負極性の双方にわたる階調電圧を扱えるように、画像データの論理電圧（たとえば5V）を高い電圧（たとえば10V）に変換する。

【0350】左側のDAコンバータ20Lには、階調電圧発生回路28より正極性の全て（K個）の階調電圧V1～VKが供給される。一方、右側のDAコンバータ20Rには、階調電圧発生回路28より負極性の全て（K個）の階調電圧V'K～V'1が供給される。

【0360】階調電圧発生回路28は、たとえば抵抗分圧回路からなり、液晶パネル100のV-T特性にしたがって各表示階調に対応した電圧レベルを有する各階調電圧が得られるように適当な箇所の接続点（ノード）に補正用の基準電圧vが供給されている。

【0370】たとえば、コモン一定駆動法において、対向電極の電圧VCOMを5ボルトに固定し、各画素電極に正極性の階調電圧（5～10ボルト）および負極性の階調電圧（5～0ボルト）を交互に印加する場合、正極性の最大階調電圧VKは10ボルトに最も近い値に設定され、負極性の最大階調電圧V'Kは0ボルトに最も近い値に設定され、両極性の最小階調電圧V1、V'1は5ボルト付近に設定される。

【0380】左側のDAコンバータ20Lは、左側レベルシフト18Lより入力した1画素分の画像データをデコードし、その画像データの表す表示階調に対応した電圧レベルを有する正極性の階調電圧Vxを選択して出力するように構成されている。一方、右側のDAコンバータ20Rは、右側レベルシフト18Rより入力した1画素分の画像データをデコードし、その画像データの表す表示階調に対応した電圧レベルを有する負極性の階調電圧V'xを選択して出力するように構成されている。左側および右側のDAコンバータ20L、20Rの出力端子は、それぞれ左側および右側の出力アンプ22L、22Rの入力端子に接続されている。

【0390】左側の出力アンプ22Lは、インピーダンス変換機能を有する演算増幅器の電圧フォロアからなり、正極性電圧の範囲内でシンク状態で動作するように構成されている。この左側の出力アンプ22Lの出力端子は、左側の第2切換回路24Lの一方（左側）の入力

端子に接続されるとともに、右側の第2切換回路24Rの他方(右側)の入力端子に接続されている。

【0400】右側の出力アンプ22Rは、インピーダンス変換機能を有する演算増幅器の電圧フォロアからなり、負極性電圧の範囲内でソース状態で動作するように構成されている。この右側の出力アンプ22Rの出力端子は、右側の第2切換回路24Rの一方(左側)の入力端子に接続されるとともに、左側の第2切換回路24Lの他方(右側)の入力端子に接続されている。

【0410】各々の第2切換回路24L、24Rは、交流化信号REVとデータ・ラッチ制御信号TPとに基づいて切換制御回路32より発生される切換制御信号SWによって切り換わるようになっている。

【0420】左側および右側の第2切換回路24L、24Rの出力端子は、それぞれ左側および右側の出力パッド26L、26Rを介して各対応するチャンネル(列)の信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>(図1では図示せず)に電気的に接続されている。両出力パッド26L、26Rないし両信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>の間には開閉スイッチ30が接続されている。

【0430】この開閉スイッチ30は、切換制御回路32より与えられる開閉制御信号SHによって開閉する。このスイッチ30が閉(導通)状態になると、このスイッチ30および出力パッド26L、26Rを介して相隣接する信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>同士が電気的に短絡するようになっている。

【0440】次に、この実施例による信号線ドライバの動作を説明する。図2に、完全ドット反転を行う場合の各部の信号の波形(一例)を示す。

【0450】この信号線ドライバを含むTFT-LCDにおいては、ゲート線ドライバG1、G2、…により液晶パネル100のゲート線Y1、Y2、…が1フレーム期間内に通常は線順次走査で1ライン(行)ずつ選択されてアクティブ状態に駆動される。各ゲート線Yが駆動される度に、各信号線ドライバでは、各チャンネルの出力パッド26より当該ライン上の各対応する画素電極に印加すべき階調電圧Vが出力される。

【0460】いま、i行のゲート線Y<sub>i</sub>が駆動されるとき、交流化信号REVの論理値がLで、各第1切換回路14L、14Rおよび各第2切換回路24L、24Rがそれぞれ一方(左側)の入力端子に切り換わっているとする。この時、第1データラッチ回路12L、12Rより、液晶パネル100内のi行j列およびi行(j+1)列にそれぞれ位置する2つの画素の表示階調を表す画像データDX<sub>i,j</sub>、DX<sub>i,j+1</sub>が、第1切換回路14L、14R、第2データラッチ回路16L、16Rおよびレベルシフタ18L、18Rを介して左側および右側のDAコンバータ20L、20Rにそれぞれ入力される。

【0470】これにより、左側のDAコンバータ20L

からは、画像データDX<sub>i,j</sub>の表す表示階調に対応した電圧レベルを有する正極性の階調電圧V<sub>j</sub>が出力される。一方、右側のDAコンバータ20Rからは、画像データDX<sub>i,j+1</sub>の表す表示階調に対応した電圧レベルを有する負極性の階調電圧V'<sub>j+1</sub>が出力される。

【0480】左側のDAコンバータ20Lより出力された正極性の階調電圧V<sub>j</sub>は、左側の出力アンプ22Lおよび第2切換回路24Lを介して左側の出力パッド26Lよりj列の信号線X<sub>j</sub>に出力される。一方、右側のDAコンバータ20Rより出力された負極性の階調電圧V'<sub>j+1</sub>は右側の出力アンプ22Rおよび第2切換回路24Rを介して右側の出力パッド26Rより(j+1)列の信号線X<sub>j+1</sub>に出力される。

【0490】この際、左側の出力アンプ22Lはj列の信号線X<sub>j</sub>を対向電極電圧V<sub>COM</sub>に対応する中間レベル付近から正極性の階調電圧V<sub>j</sub>まで駆動すればよく、右側の出力アンプ22Rは(j+1)列の信号線X<sub>j+1</sub>を中間レベル(V<sub>COM</sub>)付近から負極性の階調電圧V'<sub>j+1</sub>まで駆動すればよい。

【0500】こうして各信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>の電位がそれぞれ所望の階調電圧V<sub>j</sub>、V'<sub>j+1</sub>に達した後、所定のタイミングでゲート線ドライバGによりi行のゲート線Y<sub>i</sub>がHレベルに活性化され、このゲート線Y<sub>i</sub>に接続されているi行の全ての薄膜トランジスタTFT<sub>i,1</sub>、TFT<sub>i,2</sub>、…がオン状態になる。これにより、j列の信号線X<sub>j</sub>より正極性の階調電圧V<sub>j</sub>が薄膜トランジスタTFT<sub>i,j</sub>を介してi行j列の画素電極P<sub>i,j</sub>に書き込まれ、(j+1)列の信号線X<sub>j+1</sub>より負極性の階調電圧V'<sub>j+1</sub>が薄膜トランジスタTFT<sub>i,j+1</sub>を介してi行(j+1)列の画素電極P<sub>i,j+1</sub>に書き込まれる。

【0510】次に、(i+1)行のゲート線Y<sub>i+1</sub>が駆動されるときは、その水平走査期間の開始時に交流化信号REVの論理値がLからHに反転すると同時に、データ・ラッチ制御信号TPがLレベルからHレベルに立ち上がる。

【0520】交流化信号REVの論理値がHになることで、第1切換回路14L、14Rはそれぞれ他方(右側)の入力端子に切り換わる。そして、データ・ラッチ制御信号TPのHレベルへの立ち上りに応動して、左側の第1データラッチ回路12Lよりj列の信号線X<sub>j</sub>に対応した1画素分の画像データDX<sub>i+1,j</sub>が右側の第1切換回路14Rを介して右側の第2データラッチ回路16Rに転送されると同時に、右側の第1データラッチ回路12Rより(j+1)列の信号線X<sub>j+1</sub>に対応した1画素分の画像データDX<sub>i+1,j+1</sub>が左側の第1切換回路14Lを介して左側の第2データラッチ回路16Lに転送される。

【0530】一方、上記のようなデータ・ラッチ制御信号TPの立ち上がりに同期して、第2切換回路24L、24Rが切換制御回路32からの切換制御信号SWによ

り遮断状態になる。これにより、両出力アンプ22L、22Rは出力パッド26L、26Rないし信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>から電気的に遮断される。

【0540】この場合、データ・ラッチ制御信号TPの立ち上がりと同期して交流化信号REVの論理値が反転しているので、上記のように第2切換回路24L、24Rが遮断状態になっている間に、開閉スイッチ30が切換制御回路32からの開閉制御信号SHにより導通状態となる。これにより、この導通状態のスイッチ30および出力パッド26L、26Rを介して相隣接する信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>同士が互いに短絡する。

【0550】前回の水平走査期間中、j列の信号線X<sub>j</sub>は左側のDAコンバータ20Lより正極性の階調電圧V<sub>j</sub>を給電され、(j+1)列の信号線X<sub>j+1</sub>は右側のDAコンバータ20Rより負極性の階調電圧V<sub>j+1</sub>を給電されている。したがって、交流化の極性反転時でかつ水平走査期間の開始時に両信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>がスイッチ30を介して互いに短絡することにより、両信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>上の電位は互いに打ち消し合い、それぞれ基準レベル(VCOM)付近に平均化される。

【0560】データ・ラッチ制御信号TPがHレベルからLレベルに立ち下がると、左側および右側の第2データラッチ回路16L、16Rより1画素分の画像データDX<sub>i+1,j+1</sub>、DX<sub>i+1,j</sub>が、それぞれ左側および右側のレベルシフタ18L、18Rを介して左側および右側のDAコンバータ20L、20Rに入力される。

【0570】これにより、左側のDAコンバータ20Lからは、画像データDX<sub>i+1,j+1</sub>の表す表示階調に対応した電圧レベルを有する正極性の階調電圧V<sub>j+1</sub>が出力される。一方、右側のDAコンバータ20Rからは、画像データDX<sub>i+1,j</sub>の表す表示階調に対応した電圧レベルを有する負極性の階調電圧V'<sub>j</sub>が出力される。

【0580】一方、上記のようにデータ・ラッチ制御信号TPがHレベルからLレベルに立ち下がる時、これと同時に切換制御回路32の制御により開閉スイッチ30が開状態に切り換わり、かつ第2切換回路24L、24Rがそれぞれ他方(右側)の入力端子に切り換わる。

【0590】スイッチ30が開状態になることで、両信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>は電気的に遮断される。また、第2切換回路24L、24Rがそれぞれ他方(右側)の入力端子に切り換わることで、左側の出力アンプ22Lの出力端子は右側の第2切換回路24Rを介して右側の出力パッド26Rに接続され、右側の出力アンプ22Rの出力端子は左側の第2切換回路24Lを介して左側の出力パッド26Lに接続される。

【0600】これにより、左側のDAコンバータ20Lより出力された正極性の階調電圧V<sub>j+1</sub>は、左側の出力アンプ22Lおよび右側の第2切換回路24Rを介して右側の出力パッド26Rより(j+1)列の信号線X<sub>j+1</sub>に出力され、この信号線X<sub>j+1</sub>に接続されている(i

+1)行の薄膜トランジスタTF<sub>Ti+1,j+1</sub>を介して対応する画素電極Pi+1,j+1に印加される。

【0610】一方、右側のDAコンバータ20Rより出力された負極性の階調電圧V'<sub>j</sub>は、右側の出力アンプ22Rおよび左側の第2切換回路24Lを介して左側の出力パッド26Lよりj列の信号線X<sub>j</sub>に出力され、この信号線X<sub>j</sub>に接続されている(i+1)行の薄膜トランジスタTF<sub>Ti+1,j</sub>を介して対応する画素電極Pi+1,jに印加される。

【0620】この場合、左側の出力アンプ22Lは(j+1)列の信号線X<sub>j+1</sub>を中間レベル(VCOM)付近から正極性の階調電圧V<sub>j+1</sub>まで駆動すればよく、右側の出力アンプ22Rはj列の信号線X<sub>j</sub>を中間レベル(VCOM)付近から負極性の階調電圧V'<sub>j</sub>まで駆動すればよい。

【0630】こうして各信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>の電位がそれぞれ所望の階調電圧V'<sub>j</sub>、V<sub>j+1</sub>に達してから、所定のタイミングでゲート線ドライバGにより(i+1)行のゲート線Y<sub>i+1</sub>がHレベルに活性化され、このゲート線Y<sub>i+1</sub>に接続されている(i+1)行の全ての薄膜トランジスタTF<sub>Ti+1,1</sub>、TF<sub>Ti+1,2</sub>、……がオン状態になる。これによって、j列の信号線X<sub>j</sub>より負極性の階調電圧V'<sub>j</sub>が薄膜トランジスタTF<sub>Ti+1,j</sub>を介して(i+1)行j列の画素電極Pi+1,jに書き込まれ、(j+1)列の信号線X<sub>j+1</sub>より正極性の階調電圧V<sub>j+1</sub>が薄膜トランジスタTF<sub>Ti+1,j+1</sub>を介して(i+1)行(j+1)列の画素電極Pi+1,j+1に書き込まれる。

【0640】なお、i行のゲート線Y<sub>i</sub>が駆動されるときでも、その水平走査期間の開始時に開閉制御信号SHがHレベルになっている期間中に開閉スイッチ30が導通して両信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>が互いに短絡し、上記のような両信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>間の電位の打ち消しまたは平均化が行われる。

【0650】以後、上記した2ライン分の動作が繰り返される。これにより、液晶パネル100のY方向において1画素毎に階調電圧の極性が反転する。また、X方向においても1画素毎に(各隣接する2つの信号線X<sub>j</sub>、X<sub>j+1</sub>の間で)階調電圧の極性が反転する。

【0660】なお、各切換回路14L、14R、24L、24Rは、交流化信号REVにより1フレーム毎にも切り換わる(すなわち各行のゲート線Y<sub>i</sub>が駆動される時の各切換回路14L、14R、24L、24Rの位置がフレーム毎に反転する)ように制御される。このようなフレーム周期の反転により、図11に示すようなコモン一定駆動法による電極電圧波形が得られる。

【0670】上記したように、本実施例による信号線ドライバでは、各隣合う2つのチャンネル分の駆動部において、左側のDAコンバータ20Lおよび出力アンプ22Lを正極性の階調電圧専用に構成するとともに右側の



DAコンバータ20Rおよび出力アンプ22Rを負極性の階調電圧専用に構成し、両DAコンバータ20L, 20Rの前段に設けた第1切換回路14L, 14Rと両出力アンプ22L, 22Rの後段に設けた第2切換回路24L, 24Rとを所定の周期たとえば1ライン周期かつフレーム周期で切り換えることにより、図11に示すようなコモン一定駆動法と図13に示すような完全ドット反転(1画素毎の反転)とを実現している。

【0680】各出力アンプ22L, 22Rは、片方の極性の階調電圧の範囲で常時シンク状態もしくはソース状態のいずれかで動作すればよく、特に交流化の極性反転時には中間レベル(VCOM)付近から片方の極性の所望の階調電圧まで信号線Xj, Xj+1を駆動すればよく、電圧スイング幅は従来のほぼ半分で済む。このため、消費電力が大幅に低減される。

【0690】また、駆動能力が小さくて済むため、各出力アンプ22L, 22Rにおいて、1チャンネル分の回路規模が小さくなるとともに、ダイナミックレンジまたはリニアリティやオフセット等の特性も向上する。

【0700】なお、交流化周期を任意に選択することが可能である。図3に、各列(Y方向)の画素に書き込む階調電圧の極性を2ライン(2水平走査期間)周期で反転させる場合の各部の信号の波形(一例)を示す。

【0710】図3に示すように、開閉制御信号SHは、交流化信号REVの論理値が反転する時にデータ・ラッチ制御信号TPと同じタイミングで活性化される。つまり、各信号線X上で電圧の極性が反転する時に、開閉スイッチ30が閉じて、各隣合う信号線Xj, Xj+1同士を短絡させる。これにより、各信号線Xの電位は隣の信号線の逆極性の電位と互いに打ち消し合うようにして中間レベル(VCOM)付近に平均化され、その平均レベルから所定の出力アンプ22によって逆極性の所望の階調電圧まで駆動されることになる。

【0720】なお、図2および図3では、説明と理解の便宜上、各ラインにおいてj列の信号線Xjに与えられる階調電圧と(j+1)列の信号線Xj+1に与えられる階調電圧とはほぼ等しいものとして図示している。

【0730】図4に、第2切換回路24L, 24Rおよび開閉スイッチ30の回路構成例を示す。この構成例では、各々の第2切換回路24L, 24Rが一对のトランスファゲートTGa, TGbからなり、開閉スイッチ30が1個のトランスファゲートTGcからなる。切換制御回路32より、各々の第2切換回路24L, 24RのトランスファゲートTGa, TGbには切換制御信号SWa, SWbがそれぞれ与えられ、開閉スイッチ30のトランスファゲートTGcには開閉制御信号SHが与えられる。

【0740】切換制御信号[SWa, SWb]の論理値が[L, L]のときは、各々の第2切換回路24L, 24Rにおいて左側のトランスファゲートTGaがオン

で、右側のトランスファゲートTGbがオフとなる。これにより、左側の出力アンプ22Lの出力端子は左側の第2切換回路24Lの左側トランスファゲートTGaを介して左側の出力パッド26Lに接続され、右側の出力アンプ22Rの出力端子は右側の第2切換回路24Rの左側トランスファゲートTGaを介して右側の出力パッド26Rに接続される。

【0750】反対に、切換制御信号[SWa, SWb]の論理値が[H, H]のときは、各々の第2切換回路24L, 24Rにおいて左側のトランスファゲートTGaがオフで、右側のトランスファゲートTGbがオンとなる。これにより、左側の出力アンプ22Lの出力端子は右側の第2切換回路24Rの右側トランスファゲートTGbを介して右側の出力パッド26Rに接続され、右側の出力アンプ22Rの出力端子は左側の第2切換回路24Lの右側トランスファゲートTGbを介して左側の出力パッド26Lに接続される。

【0760】また、切換制御信号[SWa, SWb]の論理値が[H, L]のときは、各々の第2切換回路24L, 24Rにおいて両トランスファゲートTGa, TGbがどちらもオフとなる。この時、両出力アンプ22L, 22Rのいずれも出力パッド26L, 26Rから遮断される。

【0770】定常時、開閉制御信号SHの論理値はLに保たれ、これにより開閉スイッチ28のトランスファゲートTGcはオフ状態に保持される。しかし、切換制御信号[SWa, SWb]の論理値が[H, L]になっている期間中、つまり第2切換回路24L, 24Rが遮断状態になっている期間中に、開閉制御信号SHがHになり、開閉スイッチ30のトランスファゲートTGcがオン状態になる。そうすると、上記したように、このスイッチ30および出力パッド26L, 26Rを介して相隣接する信号線Xj, Xj+1同士が電氣的に短絡することになる。

【0780】図5に、切換制御回路30の回路構成例を示す。この構成例では、交流化信号REVとデータ・ラッチ制御信号TPとに基づいて遅延回路34、排他的OR回路36、ANDゲート38により開閉制御信号SHが生成されるとともに、この開閉制御信号SHと交流化信号REVとに基づいて反転回路42、ORゲート40およびANDゲート44によって切換制御信号SW(SWa, SWb)が生成される。

【0790】すなわち、交流化信号REVの論理値がHからLへ、またはその逆に反転した時に排他的OR回路36の出力端子に論理値Hのパルス信号が得られる。このパルス信号のパルス幅は遅延回路34における遅延時間に相当し、普通はデータ・ラッチ制御信号TPのパルス幅よりも大きな値に選ばれてよい。

【0800】データ・ラッチ制御信号TPは交流化信号REVに同期して与えられる。REVの論理値が1ライ

10

20

30

40

50

ン周期で反転する場合は、これと同じタイミングでTPの論理値がHになり、ANDゲート38の出力端子にはデータ・ラッチ制御信号TPに対応した開閉制御信号SHが得られる。

【0810】交流化信号REVが論理値HからLに反転するとき、この反転時点からANDゲート44の出力つまり切換制御信号SWbがLになる。一方、REVの反転時にデータ・ラッチ制御信号TPがHレベルに立ち上がるにより、ANDゲート38の出力つまり開閉制御信号SHがHレベルとなり、この開閉制御信号SHがHレベルに活性化されている間はORゲート40の出力つまり切換制御信号SWaがHになる。こうして切換制御信号[SWa, SWb]の論理値が[H, L]となり、各々の第2切換回路24L, 24Rにおいて両トランスファゲートTGa, TGbがどちらもオフとなる。これにより、両出力アンプ22L, 22Rのいずれも出力パッド26L, 26Rから遮断される。

【0820】そして、開閉制御信号SHがHレベルであるため、開閉スイッチ30が閉じて隣合う信号線Xj, Xj+1同士が互いに短絡し、両信号線の間で逆極性の電位同士が互いに打ち消し合い平均化される。

【0830】データ・ラッチ制御信号TPがLレベルに立ち下がると、ANDゲート38の出力つまり開閉制御信号SHもLレベルに立ち下がり、開閉スイッチ30が定常時の開状態に戻る。また、開閉制御信号SHがLレベルに立ち下がることで、ORゲート40の出力つまり切換制御信号SWbがLになる。こうして、切換制御信号[SWa, SWb]が[L, L]となり、各々の第2切換回路24L, 24Rにおいて左側のトランスファゲートTGaがオンで、右側のトランスファゲートTGbがオフとなる。

【0840】交流化信号REVが論理値LからHに反転するときも、その反転時に上記と同様に第2切換回路24L, 24Rが一時的に遮断してその間に開閉スイッチ30が導通して両信号線Xj, Xj+1が互いに短絡し、その直後に各々の第2切換回路24L, 24Rにおいて左側のトランスファゲートTGaがオフで、右側のトランスファゲートTGbがオンとなる。

【0850】図6に、本発明の別の実施例による信号線ドライバの構成例を示す。この信号線ドライバでは、全ての隣合う出力パッドまたは信号線の間の開閉スイッチ30を接続し、交流化の極性反転時には全ての開閉スイッチ30を一斉に閉状態にして、全ての信号線X1, X2, ……を互いに短絡させるように構成している。この場合には、全ての信号線X1, X2, ……の間で正極性の電位と負極性の電位とが互いに打ち消し合って平均化され、各信号線X1, X2, ……の電位が中間レベルVCOM付近に収束する。

【0860】さらに、この信号線ドライバでは、一端の出力パッド(OUTn)を開閉スイッチ46を介して対向電

極電圧VCOM またはこれに近い電圧を供給する電源電圧端子に接続している。この開閉スイッチ46は、全ての開閉スイッチ30が一斉に閉状態になっている期間中に、好ましくはこの期間の後部で切換制御回路32からの制御信号SCによって閉じる。これによって、対向電極電圧VCOM またはこれに近い電圧が閉状態のスイッチ46および30, 30, ……を介して全ての信号線X1, X2, ……に供給される。この結果、各信号線X1, X2, ……の電位が高い精度で中間レベルVCOM 付近にリセットされる。

【0870】図7に、他の実施例による信号線ドライバの要部の回路構成例を示す。この信号線ドライバでは、各チャンネルの駆動部を平行に独立させている。したがって、図1および図6の構成例におけるような切換回路14, 24は設けられていない。ただし、各チャンネルのDAコンバータは、階調電圧発生回路28より正極性の全階調電圧V1 ~ V64および負極性の全階調電圧V64' ~ V1'を受け取り、その中から1つの階調電圧を選択して出力するように動作する。また、各チャンネルの出力アンプ22は、シンクおよびソースの両機能を備え、正極性の電圧範囲と負極性の電圧範囲とで交互に動作する。

【0880】図7の構成例では隣合う一対のチャンネル間に開閉スイッチ30を接続しているが、図6と同様に全チャンネル間に開閉スイッチ30を設けてもよい。

【0890】なお、図1、図6および図7においては、20L, 20R, 20をそれぞれDAコンバータと表記しているが、これらは実質的にはデコーダ回路であり、デジタルデータをアナログ電圧に変換するという意味で、DAコンバータとしている。

#### 【0900】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の液晶ディスプレイ用信号線駆動回路によれば、コモン一定駆動法のドット反転駆動において交流化の極性反転時に隣合う信号線同士を一時的に短絡させてそれぞれの電位を互いに打ち消させて中間レベル付近に平均化し、この平均化された電位から各信号線を所望の階調電圧まで駆動するようにしたので、駆動部の負担を軽減し、消費電力を大幅に低減させることができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例による信号線ドライバの要部の回路構成を示すブロック図である。

【図2】実施例において完全ドット反転を行う場合の各部の信号の波形(一例)を示すタイミング図である。

【図3】実施例においてY方向に2ライン置き of ドット反転を行う場合の各部の信号の波形(一例)を示すタイミング図である。

【図4】実施例における第2切換回路および開閉スイッチの回路構成例を示す回路図である。

【図5】実施例における切換制御回路の回路構成例を示

す回路図である。

【図6】別の実施例による信号線ドライバの回路構成を示すブロック図である。

【図7】他の実施例による信号線ドライバの要部の回路構成を示すブロック図である。

【図8】アクティブマトリクス方式のフルカラーTFT-LCDの構成を模式的に示すブロック図である。

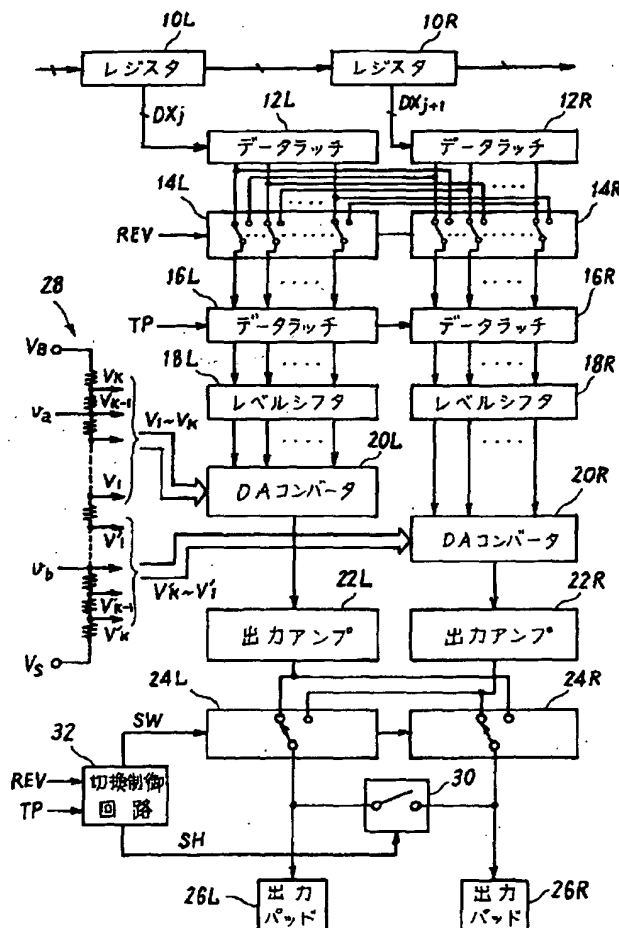
【図9】TFT-LCDの液晶パネルの典型的な構成を示す部分断面図である。

【図10】TFT-LCDの液晶パネル内の回路構成を示す回路図である。

【図11】コモン一定駆動法による画素電極電圧および対向電極電圧の電圧波形を示す図である。

【図12】コモン反転駆動法による画素電極電圧および

【図1】



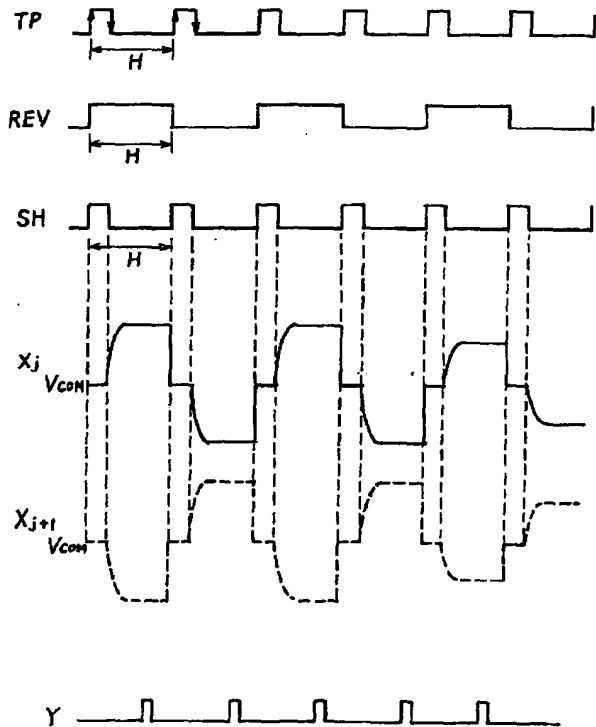
対向電極電圧の電圧波形を示す図である。

【図13】液晶ディスプレイにおける完全ドット反転のパターンを示す図である。

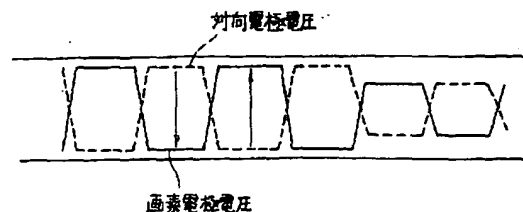
【符号の説明】

- 12, 12L, 12R 第1データラッチ回路
- 14, 14L, 14R 第1切換回路
- 16, 16L, 16R 第2データラッチ回路
- 18, 18L, 18R レベルシフタ
- 20, 20L, 20R DAコンバータ
- 22, 22L, 22R 出力アンプ
- 24L, 24R 第2切換回路
- 30 開閉スイッチ
- 32 切換制御回路
- 46 開閉スイッチ

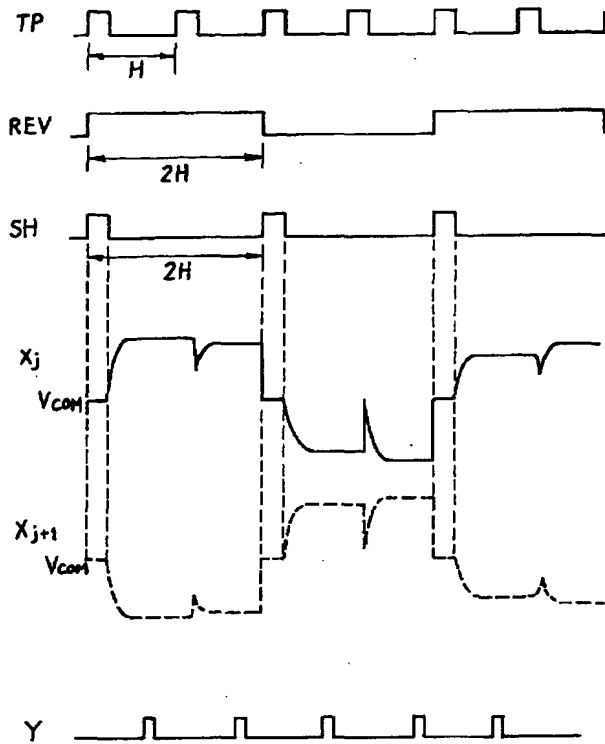
【図2】



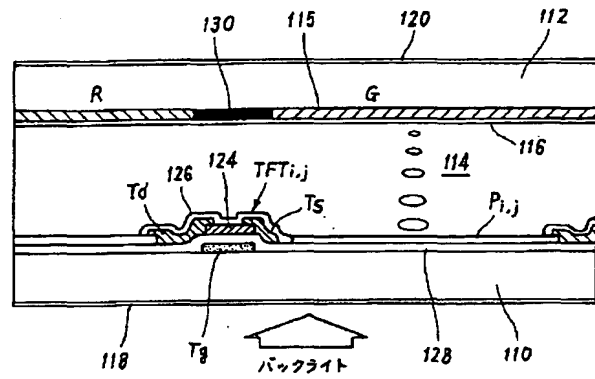
【図12】



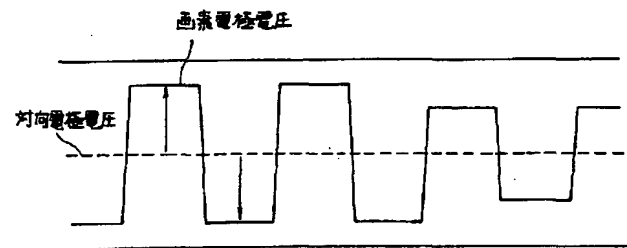
【図3】



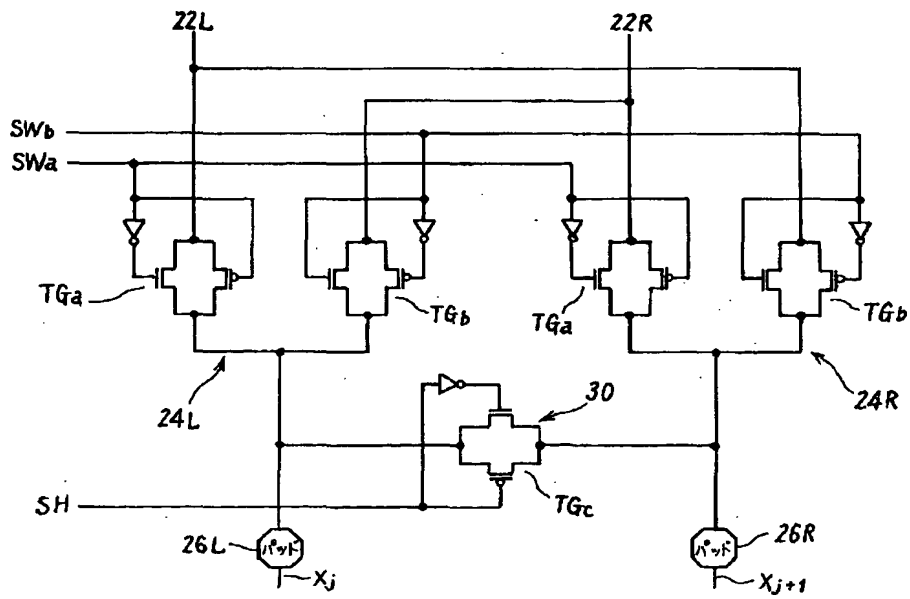
【図9】



【図11】



【図4】







【図 10】

